

La letteratura italiana di oggi

イタリア 現代文学案内 2025



3 ご挨拶

アンドレア・ラオス
(イタリア文化会館-大阪 館長)

小説

4 『マダム・マトリョーシカ』

アニャ・ポアート

6 『アデライダ』

アドリアン・N・ブラーヴィ

8 『善き娘たち』

オルガ・カンポフレダ

10 『過ちの進路』

ダヴィデ・コッポ

12 『母語』

マッダレーナ・フィンゲルレ

14 『転覆の年』

シモーネ・インノチェンティ

16 『ヒジユラ』

サイフ・ウル・レーマン・ラジャ

18 『テーブル利用料／たまには連絡を』

ジルベルト・セヴェリーニ



エッセイ

20 『現実入門』

エドアルド・カムッリ

22 『サッド・ガール——理論としての「女の子」』

サラ・マルズロ

24 『自然の意味——地球の7つの道』

パオロ・ペーチェレ

26 『フェミニズムを実践するということ』

ジュリア・シヴィエーロ

28 『緑の世界——中学生からSFまでの森を生きる』

ダニーロ・ザガリア

グラフィックノベル

30 『ハートブレイク・ホテル』

ミコル・アリアンナ・ベルトラミーニ 作、
アニーゼ・インノチェンティ 画

32 『空飛ぶ城塞』

ロレンツォ・バッローニ 作、ミゲル・ヴィーラ 画

34 『冒険家小説』

アンドレア・セッティモ 作、
アレックスandro・トータ 画

36 イタリア文化会館／Book Prideについて

37 須賀敦子翻訳賞

38 イタリア外務・国際協力省による翻訳出版・映像／吹替え／字幕翻訳制作への助成金制度

ご挨拶

2020年、イタリア文化会館-東京とイタリア文化会館-メルボルンは、イタリアの独立系出版社のフェア「Book Pride」の協力のもと、『イタリア現代文学案内2020』という冊子をそれぞれ発行しました。

この冊子発行のアイディアは、“各国語に翻訳出版されたことのない、厳選されたイタリア語書籍を、小説／エッセイ／グラフィック・ノベルという3つのジャンルに分け、自国の出版業界の方々に紹介する”というもので、パンデミックの最中に生まれました。

これは、現代と同じように複雑に情報化した社会でありながら、ほぼオンラインでの交流でのみ完結していた当時の状況下では、あらゆる文化において、外部からの視線からでは見逃してしまう角度やニュアンスはあるのだという確信に基づいたものだった。それがたとえ、最も注意深く観察したもののだとしても、です。

2020年から今日までに、世界では実に多くのことが変化しました。Book Prideにおいても、その活動範囲は広がり、年に2回、ジェノヴァとミラノの2つの都市で開催されるほか、2025年からはヨーロッパで2番目に重要なブックフェアである「トリノ国際

ブックフェア」のプロジェクトとなりました。しかしながら、あらゆる道、どんな細かな道をも模索し、現代イタリア文学の全景をより広く紹介する、という確固たる信念は今も変わらずあります。

Book Prideの特質が、中小規模の出版社や新人作家の認知度をあげることなのだとしたら、この度、同じ目的を持って発行した『イタリア現代文学案内2025』を日本の皆さまにお届けできることを、私たちは大変光栄に思います。

『イタリア現代文学案内2025』は、主に翻訳家や研究者を対象としていますが、イタリア語を学ぶ学生や、珍しい読書体験に挑戦したいというシンプルな愛好家も対象としており、文学というフィルターを通して、ステレオタイプからかけ離れた、心躍るような発見に満ちたイタリアを紹介することを目指しています。

最後に、本プロジェクトにご協力くださったイタリア文化会館-東京およびシルヴァーナ・デマイオ館長、作品紹介文の翻訳にご尽力くださいました京都ドーナツクラブの皆さま、そして、Book Pride総合ディレクターのイザベッラ・フェレッティ氏とスタッフの方々に心から御礼申し上げます。



イタリア文化会館-大阪 館長
アンドレア・ラオス



入れ子状、組み紐状に、 次から次へと話がつながる物語の妙



01

マダム・マトリョーシカ アニャ・ボアート

Madama Matrioska
Anja Boato

ショーン・ペンの本当の父親は誰？ マリオーネはなぜ死んだ？ 髪の色を豹変させたテレビ司会者のチェチリアとマリオーネを結びつけるものとは？ そして、チェチリアとショーン・ペンの母親アルバは？

これが『マダム・マトリョーシカ』の物語ではない。いや、より正確を期すなら、これだけの話ではない。アニャ・ボアートは、このデビュー作でワクワクするほど魅力的な連想ゲームに取り組んでいる。ある章では脇役だった人物が次の章では主役になり、疑問（とその暫定的な答え）は増殖していく。どのエピソードにもそれが生まれる原因があり、そのまた原因があって、さらにまたその前にも原因がある時、人はどう物語ればいいのか？ 前に進むというよりも、常にバックしながら、私たちの人生において表面上は無関係に見える糸を片っ端から結びつけていくなんて芸当が可能なのだろうか？

『マダム・マトリョーシカ』は構造が鮮やかな小説でありながら、その筆致にはなおのこと鮮やかなものがある。章ごとに主人公が異なるだけでなく、殺人（本物もあれば、未遂もあり、疑惑もある）、高価な指輪、精神の不調、病気、葬儀、恐ろしい逃走劇といったモチーフそれぞれのトーンや文体が用意されているのだ。



作者略歴

アニャ・ボアート Anja Boato

ローマ大学ラ・サピエンツァで表象文化を専攻。雑誌のライターとして働くかたわら、いくつかのフェスティバルで広報として活動している。本作は彼女のデビュー作である。

作品情報

タイトル Madama Matrioska
(マダム・マトリョーシカ)
著者 Anja Boato (アニャ・ボアート)
発行年 2023
ページ数 192
出版社 Accento edizioni
(アッチェント・エディツィオーニ)
ISBN 979-12-8105-505-6

お問い合わせ

Accento edizioni
(アッチェント・エディツィオーニ)
所在地 Via Castelfidardo, 8, 20121 Milano
担当 Gianmario Pilo (ジャンマリオ・ピーロ)
E-mail info@accentoedizioni.it
URL <https://accentoedizioni.it/>

20世紀のアルゼンチンを代表する 女性芸術家の数奇な人生



02

アデライダ

アドリアン・N・ブラーヴィ

Adelaida
Adrián N. Bravi

1927年、レカナーティで生まれたアデライダ・ジリーは、画家ロレンツォ・ジリーの娘で、家族とともにファシズム期にイタリアを離れ、アルゼンチンへ移住することとなる。彼女は才気煥発な芸術家で、世間に順応することを良しとしない。1940年代末、彼女はブエノスアイレスの政治や文学の世界に身を投じ、他の知識人たちと雑誌『Contorno』を創刊。この雑誌は、1950年代のアルゼンチンにおいて、社会的弱者の側に立つ政治的立場を取ることで重要な存在となった。その時期、アデライダには二人の子ども、ミーニとロレンツォがいた。二人は革命的なグループ「モントネーロス」の活動家だったが、ミーニは1976年に、ロレンツォは1980年に「行方不明者（デサパレシードス）」となった。

1976年の軍事クーデターと子どもたちの失踪を受けて、アデライダはアルゼンチンを離れ、イタリアに戻り、アーティストとしてもひとりの人間としても、新たな人生を歩み始めた。最後の数年間を施設で孤独に過ごした後、彼女は2010年に亡くなった。

アドリアン・N・ブラーヴィは、アデライダ・ジリーから直接聞いた話をもとに、彼女の人生をたどりながら、独裁政権時代、若者たちの政治活動、文化的な高揚、そしてアルゼンチン文学の力に光を当てていく。



作者略歴

アドリアン・N・ブラーヴィ Adrián N. Bravi

ブエノスアイレス生まれ。25歳までアルゼンチンで暮らし、その後、哲学の研究のためイタリアに移住。1999年にスペイン語で小説家としてデビューしたが、その後、イタリア語で執筆する道を選ぶ。

作品情報

タイトル Adelaida (アデライダ)
著者 Adrián N. Bravi
(アドリアン・N・ブラーヴィ)
発行年 2024
ページ数 144
出版社 Nutrimenti (ヌトリメンティ)
ISBN 979-12-5548-039-6

お問い合わせ

Casa editrice Nutrimenti
(カーザ・エディトリージェ・ヌトリメンティ)
所在地 Via Marco Aurelio 44, 00184 Roma
担当 Maria Leonardi (マリア・レオナルディ)
Tel (+39) 06-7049-2976
E-mail rights@nutrimenti.net
URL <https://www.nutrimenti.net/>

地方の退屈な未来からの逃走。
 幸せなはずの結婚直前の従姉妹の失踪。
 我が道を行くために、まず我が道を切り開く女性たち。



03

善き娘たち

オルガ・カンポフレダ

Ragazze perbene
 Olga Campofreda

地方都市の善き娘たちは、みなよく似ている。聞き飽きた未来から逃れるため、クララはロンドンに移り住み、裕福な外国人駐在員にイタリア語を教え、マッチング・アプリの渦に飲み込まれている。そんな中、いつも一緒だった幼馴染で、ウェディングドレスのモデルとなった美人の従姉妹ロセッラが結婚式を挙げるのをきっかけに、カゼルタに帰郷する。

こうしてクララは、一度は逃げ出した世界に再び足を踏み入れることになる。ロセッラの独身最後のパーティーで同級生達と再会。その数日後には、過去に他人には言えない友人関係にあった新郎のルカとも再会する。そんな中、突然、ロセッラは痕跡ひとつ残さずに失踪してしまう。ロセッラが何かを隠していると確信したクララは、彼女の明かすことのできない秘密を日記の中に発見する。それはロセッラがこれまでずっと体現してきた輝かしい未来を危ぶませるものだった。

オルガ・カンポフレダは、母から娘へと受け継がれてきた犠牲や諦め、理想の結婚、不幸といった女らしさの鏡を運命づけられた善き娘たちの生活の裏側や、隠し持った欲望を白日の下に晒していく。これは、古びた夢やしきたりに抗い、自身の新たな道を自らの意志で少しずつ切り開く女性の物語だ。



作者略歴

オルガ・カンポフレダ Olga Campofreda

ロンドン在住のイタリア言語文化研究者。20歳以下のフェンシング英国代表チームを指導する。2009年La confraternita di Elvis (エルヴィス同胞団, ARPANet) でデビュー。雑誌やウェブで短編を発表している。

作品情報

タイトル Ragazze perbene (善き娘たち)
 著者 Olga Campofreda
 (オルガ・カンポフレダ)
 発行年 2023
 ページ数 224
 出版社 NNEditore (NNエディトーレ)
 ISBN 979-12-8028-480-8

お問い合わせ

(1) NNEditore Srl (NNエディトーレ)
 所在地 Via Sabotino, 14, 20135 Milano
 担当 Luisa Rovetta (ルイザ・ロヴェッタ)
 E-mail nneditore.it / eugenia.dubini@nneditore.it
 URL <https://www.nneditore.it/>

(2) Grandi e Associati (グランディ・エ・アッソチャーティ)
 所在地 Via degli Olivetani, 12, 20123 Milano
 担当 Luisa Rovetta (ルイザ・ロヴェッタ)
 E-mail luisa.rovetta@grandieassociati.it
 URL <https://www.grandieassociati.it/>

ごく普通の男の子が、
ふとした拍子にファシストに。
何が人を変えるのか。なぜ悪に導かれるのか。



04

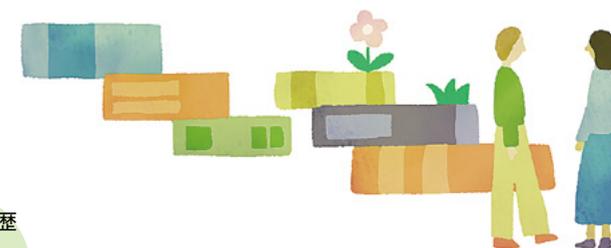
過ちの進路

ダヴィデ・コッポ

La parte sbagliata
Davide Coppo

育ちが良く特にトラウマもない少年を、政治的に過激な道へと導く要因はなんだろう？ 舞台は2000年であって、70年代ではない。本作の主人公エットレは郊外を離れ、都心の大規模な高校に入学する。縁もゆかりもないので孤立するばかりで居場所がなく、友情など育む余地もない。やがて彼は、ネオ・ファシストのグループにひょんなことからめぐりあい、自ら進んで過激化することで、家族や友達とも距離を置き、必然的に悲劇的な末路へと向かっていく。

この小説は成長過程の過ちをテーマにしたもので、クライマックスではパイオレンスのみならず、人間のつながり、そして何よりもアイデンティティの形成が描かれている。同時に、思春期特有の甘美で痛々しい孤立感をめぐって内心をさらけ出す告白でもあり、あれよあれよと強くなる悪の誘惑をめぐる旅でもある。



作者略歴

ダヴィデ・コッポ Davide Coppo

1986年、ミラノ生まれ。2011年から紙媒体とウェブ双方の雑誌でライターとして執筆活動を行っている。

作品情報

タイトル La parte sbagliata (過ちの進路)
著者 Davide Coppo
(ダヴィデ・コッポ)
発行年 2024
ページ数 256
出版社 E/O Edizioni
(E/Oエディツィオーニ)
ISBN 978-88-3357-759-3

お問い合わせ

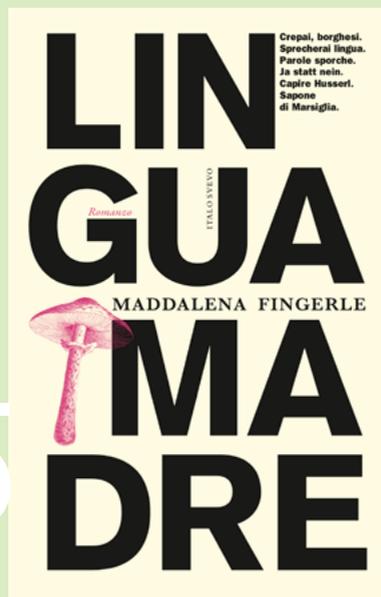
E/O Edizioni Srl (E/Oエディツィオーニ)
所在地 Via Gabriele Camozzi 1, 00195 Roma
担当 Emanuela Anechoum
(エマヌエーラ・アネコウム)
Tel (+39) 06-3722-829
Fax (+39) 06-3735-1096
E-mail emanuelaanechoum@edizionieo.it
URL <https://www.edizionieo.it/>

コミュニケーションの道具である言葉が、
実は使い手の価値観や人生観を決めてゆく。
美しい言葉とは？ そして、汚れた言葉とは？

05

母語

マッダレーナ・フィンゲルレ

Lingua madre
Maddalena Fingerle

「言葉は汚れている」。ボルツァーノの青年、パオロ・プレッシャーは何度もそう繰り返す。地方都市での偽善的な暮らしの中で、彼はイタリア語とド

イツ語という二つの言語の間、汚い言葉と美しい言葉を行き来しながら生きている。彼の父親は言葉を発しないし、家は変わっていて、そこら中に物

の名前を示すラベルが貼ってある。それでも、母と姉がうまく理解できないようだ。こうして、パオロの言葉に対する強迫観念が生まれた。

父親の死後、パオロはイタリア語をもう話すまいと決め、ベルリンに移住する。図書館で働き、ミラに出会うことで、普通の暮らしに落ち着いていくに思われた。ミラへの恋と彼女の話す美しいイタリア語で、パオロは新しい生活が始まると確信したのだ。「ミラの話し方は美しい。言葉が美しいとは、こういうことだ。発言したことが意図したままの意味で、偽りがなくて、わかりやすい。それを台無しにしたり汚染したりするような悪いイメー

ジの混じる余地がない」からだ。

多文化が共生するベルリンでの散歩、図書館、友人たち。すべてが穏やかに進んでゆくように思われた。しかし、ミラの妊娠が判明すると、二言語を併用するボルツァーノへ帰郷。息子が誕生し、再び言葉の強迫に囚われてゆく。言葉はまた汚れはじめ、痛ましいことに、生まれたばかりの息子にまで影響を及ぼす。

『母語』はアルト・アディジェ地方の二言語併用という独特の背景を舞台として、言葉の美しさと偽善という複雑なテーマに非の打ちどころのない文体で挑み、軽やかさと奥深さをうまく両立させた小説である。



作者略歴

マッダレーナ・フィンゲルレ Maddalena Fingerle

1993年、ボルツァーノ生まれ。姓はドイツ風だが、母語はイタリア語。ミュンヘンの大学で学び、現在も同地に在住。雑誌で短編を発表している。

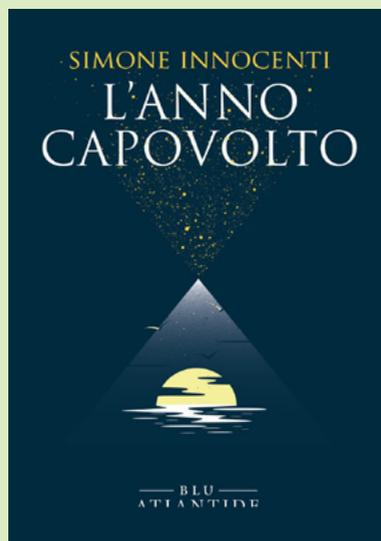
作品情報

タイトル Lingua madre (母語)
著者 Maddalena Fingerle
(マッダレーナ・フィンゲルレ)
発行年 2021
ページ数 240
出版社 Italo Svevo (イタロ・スヴェーヴォ)
ISBN 978-88-9902-855-8

お問い合わせ

Italo Svevo (イタロ・スヴェーヴォ)
所在地 Vicolo de' Cinque, 31, 00153 Roma /
Via Trauner, 1, 34121 Trieste
担当 Valentina Rosa (ヴァレンティーナ・ローザ)
Tel (+39) 06-5897-820
E-mail valentinaros@italosvevo.it
URL <https://www.italosvevo.it/>

20人もの登場人物の化けの皮が 剥がれ落ちる年越しパーティーの行方は？



06

転覆の年

シモーネ・インノチェンティ

L'anno capovolto
Simone Innocenti

トスカーナ州の海沿いにある豪華絢爛な屋敷。金持ちのジュリオと魅力的な妻フランチェスカが、新年を一緒に迎えようと列をなす親友たちを迎え入れている。

集まったのは、公証人にモデル、テニスのコーチ、保険会社員、警察官、宝石商、照明会社のセールスマン、そして海水浴場のオーナー。誰もが互いをよく知る竹馬の友だ。以来、長い年月が流れ、愛情や妬み、金銭関係、欲望、そして秘密が生まれてきたことが、今になってふいに、それぞれが実態を詐称して集ったパーティーにおいて、露見しつつある。

新年のカウントダウンに向け、ジュリオとフランチェスカの美しき邸宅にある砂時計の砂粒がさらさらと落ちていく中、登場人物の誰もが、辛辣かつ汚い言葉で手際よく描写されるうち、現実と見せかけがもはや同じコインの表裏にはなりえない結末へと情け容赦なく引き寄せられていく。



作者略歴

シモーネ・インノチェンティ Simone Innocenti

1974年、モンテルーポ・フィオレンティーノ生まれ。Puntazza (プンタツァ, L'Erudita, 2016) でデビュー後、Firenze Mare (フィレンツェ・マーレ, Perrone, 2017) などの文学レビューを執筆。彼の短編小説は、様々なアンソロジーに収録されている。

作品情報

タイトル L'anno capovolto
(転覆の年)
著者 Simone Innocenti
(シモーネ・インノチェンティ)
発行年 2022
ページ数 224
出版社 Atlantide (アトランティデ)
ISBN 979-12-8002-820-4

お問い合わせ

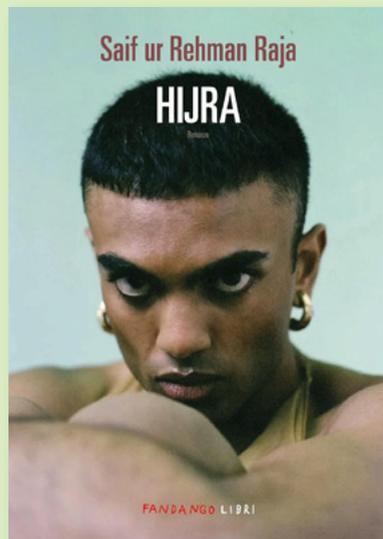
Edizioni di Atlantide srl
(エディツィオーニ・ディ・アトランティデ)
所在地 Circonvallazione Clodia,
163, 00165 Roma
担当 Erika Repetto (エリカ・レペット)
E-mail erika@edizioniatlantide.it
URL <https://www.edizioniatlantide.it/>

パキスタンとイタリアと。そのどちらでもあって、
どちらでもない自分という存在。

日本でも進む多文化共生の先に行くイタリアから
届いた、アイデンティティ探求の物語。

07

ヒジュラ

サイーフ・ウル・
レーマン・ラジャHijra
Saif ur Rehman Raja

サイーフには「始め」と「その後」がある。「始め」というのは、パキスタンの都市ラーワルピンディーで過ごした幼少期のこと。母のアンマ・シャキーラと二人の弟、母方の大家族で暮らしていた。雨が吹き込み、空の見える中庭付きの家の中で、スパイスの効いた日々の食事を共にし、皆で同じ問

題を抱えていた。

サイーフが11歳の時のこと。母のアンマは弟たちを連れ、イタリアにいる父、アバ・シャビルの元へ旅立ち、サイーフは一人、取り残された。「その後」というのは、両親の元へ行くのを待つ2年間。サイーフは踊ること、料理すること、従姉妹の髪を梳かすこと

を好んだが、それらはみんな「女」のやることだったため、まわりに順応できずに苦しんだのだった。

また、「その後」は両親との再会を果たしたイタリアでのことでもある。慣れ親しんだ香りや友達から遠く離れ、山に囲まれて雪に覆われたベッルーノの町で、肌の色や文化からサイーフは偏見にさらされた。パキスタンに戻っても、家族の伝統から外れたイタリア人の孫として迎えられた。「純粋」でない彼は、どちらの国からも距離を置かれた。イタリア人としてはパキスタン人過ぎ、パキスタン人としてはイタリア人過ぎる存在。意図せず無国籍

状態になった彼を迎え入れる国はなかった。また、サイーフは同性愛者というか、彼の父が言うところの、殴って矯正すべき半人前の「ヒジュラ」であって、家族にも受け入れられなかった。

どうすれば他者の貼るレッテルに囚われず、自ら自分を確立する権利が得られるだろう。相容れない価値観の中で、どのようにアイデンティティを築くのか。二つの文化の間を生きる青年が二重の偏見に囚われながらも、自分の望みやアイデンティティ、拠り所を自ら決めようと決意する物語だ。



作者略歴

サイーフ・ウル・レーマン・ラジャ Saif ur Rehman Raja

1994年、ラーワルピンディー（パキスタン）生まれ。11歳でベッルーノに移住し、20歳からはポーロニャ在住。過去にはイタリアに住むパキスタン人家族について、ポーロニャ大学と共同研究プロジェクトを行い、現在はシエナ大学の博士課程「社会及び職場における学習とイノベーション」に在籍。本作は2022年イタロ・カルヴィーノ賞候補。別の作品で2023年同賞短編部門の最終候補となった。

作品情報

タイトル Hijra (ヒジュラ)
著者 Saif ur Rehman Raja
(サイーフ・ウル・レーマン・ラジャ)
発行年 2024 / ページ数 228
出版社 Fandango Libri (ファンダンゴ・リブリ)
ISBN 978-88-6044-800-2

お問い合わせ

Clementina Liuzzi Literary Agency
(クレメンティーナ・リウッツィ・リテラリー・エージェンシー)
所在地 Via Filippo Casini 6 - Scala B - Int.
10, 00153 Roma
Tel (+39) 06-6933-1440
E-mail clementina@litag.it / info@litag.it

国内作家たちも熱視線を送る 「知られざる作家」の初期作品



08

テーブル利用料/ たまには連絡を ジルベルト・セヴェリーニ

Consumazioni al tavolo /
Sentiamoci qualche volta
Gilberto Severini

「もし時間ってやつが誠実な紳士で、束の間の成功の後で不公平にも見捨てられた人間に光を当ててくれるのなら、ジルベルト・セヴェリーニの再評価に期待したい」（マルコ・ロドリ）

クールな視点とメランコリーな世界観に再評価が高まるジルベルト・セヴェリーニ全作品を復刊中の出版社プレイグラウンドが、『テーブル利用料』（1982）と『たまには連絡を』（1984）の初期2作品を一冊にまとめて刊行。

『テーブル利用料』は、ブルース・

スプリングスティーンの『Tunnel of love』やキム・カーズンの『ベティ・デイビスの瞳』といった80年代のヒット曲が流れる夏にタイムスリップさせてくれる。幼馴染のアルベルト、ジャンニ、パオロ、パオラの4人は、今はみんな遠く離れて暮らしている。休みが重なり、マルケ州に集まった4人は、海水浴や観劇をとともに楽しみ、カフェで朝食をとり、カーラジオから流れる音楽に耳を傾ける。同じ場所で同じ青春の日々を過ごした4人も今では40歳手前の中年だ。仲が良かったあ

の頃と現在の距離感を見つめ直すうちに、友情や馴れ合いを理由に葬り去った恨みごとや心の傷が蘇ってくる。さらに、ロベルトという18歳の若者、その若さゆえにずる賢くてフラフラしているよそ者の出現をきっかけに、報復がはじまり、予想外の結末に導かれていく。

『たまには連絡を』は、主人公のAと、学生時代の友人アンドレアとの手紙のやり取りだ。40歳を過ぎたAは、

一度も愛情を感じたことのないラウラと結婚したことを人生最大の失敗だったと悔やんでいる。彼はいつも、本当の欲望を抑え込んできたのだ。一見、孤独に暮らすことの良さと厄介さについて何気ないやり取りが交わされているだけに思えるが、読み進めていくと、主人公たちの心の底にある個人的な過去が無情にも掘り起こされ、痛みと無力と叶わぬ願いが明るみになっていく。



作者略歴

ジルベルト・セヴェリーニ Gilberto Severini

1941年、マルケ生まれ、マルケ在住。初期作品に、『Consumazioni al tavolo（テーブル利用料, Il Lavoro Editoriale, 1982）』、『Sentiamoci qualche volta（たまには連絡を, Il Lavoro Editoriale, 1984）』、『Feste perdute（失われたパーティー, Transeuropa, 1997）』がある。1996年に『Congedo ordinario（通常休暇, Pequod）』、1998年に短編集『Quando Chicco si spoglia sorride sempre（キッコは脱ぐときいつも笑っている, Rizzoli）』を発表。2001年にRizzoliから小説『La sartoria（仕立て屋）』、2002年にPeQuodから『Ospite in soffitta（屋根裏の客人）』、2005年に同出版社から『Ragazzo Prodigo（神童）』を発表。Playgroundからは、2009年に『Il praticante（実習生）』、2010年『A cosa servono gli amori infelici（不幸な愛がなんの役に立つか）』、2011年『Congedo ordinario（通常休暇）復刻版』、2013年『Backstage（バックステージ）』、2018年『Dilettanti（愛好家）』を刊行している。

作品情報

タイトル Consumazioni al tavolo / Sentiamoci qualche volta（テーブル利用料/たまには連絡を）
著者 Gilberto Severini（ジルベルト・セヴェリーニ）
発行年 2019 / ページ数 164
出版社 Playground（プレイグラウンド）
ISBN 978-88-9945-224-7

お問い合わせ

Playground Libri Srl - Gruppo Fandango Editore（ファンダンゴ・グループ プレイグラウンド・リブリ）
所在地 Viale Gorizia, 19 00198 Roma
担当 Massimo Santagati（マッシモ・サンタガーティ）
E-mail ufficiostampa.playground@gmail.com
URL <https://www.playgroundeditore.it/>

「当たり前」を愉快地破壊して
「ものの見方」を刷新する指南書。



09

現実入門

エドアルド・カムツリ

Introduzione alla realtà
Edoardo Camurri

この物語、すなわち、私たちの物語は、始まりから、つまり、誕生から始まる。誕生とは、まるで魔法のように私たちを体験の次元に導くと同時に、現実の限られた部分に閉じこめる身体的な行為だ。エドアルド・カムツリは、私たちを気づかぬうちに狭い枠に閉じこめてしまう「ものの見方」の物理的なルーツを再発見させてくれる。

『現実入門』は、タイトルから想像されるような講義めいた内容ではなく、「異化」の練習、すなわち、自動的に何かを知覚することからの脱却を目指すものだ。カムツリは、きみ（つまり、私たちみんなのことだ）に向けて書いたこのサイケデリックな手紙の中で、日常という薄いヴェールの下に隠された、存在の未知の側面を再発見する道を示してくれる。啓示的なイメージが次々と繰り広げられながら、カムツリは私たちに、現実に対する従来の理解を忘れ、新たな驚くべき次元に飛びこむように促す。それは、愛と理解に満ち、クモの足の影と銀河の誕生が等価であるような次元だ。



作者略歴

エドアルド・カムツリ Edoardo Camurri

1974年生まれ。現在、公共放送 Rai3の番組 Alla scoperta del ramo d'oro (金枝を探して) で司会を務めるほか、テレビ、ラジオ、新聞など幅広いメディアで活動している。Adelphiではフアン・ロドルフォ・ウィルコックの Il reato di scrivere (書くという罪) の編集を担当し、Mondadoriではオルガス・ハクスリーのサイケデリック文学を紹介するなど、さまざまな分野で活躍している。

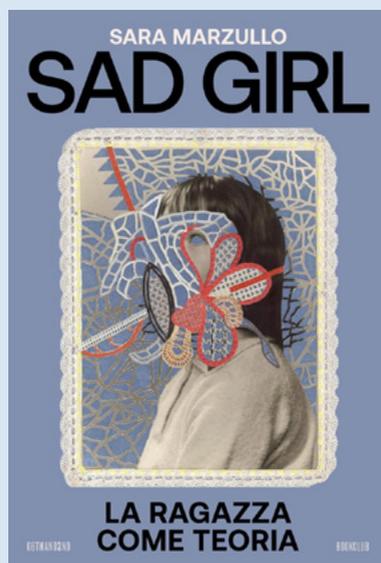
作品情報

タイトル Introduzione alla realtà (現実入門)
著者 Edoardo Camurri
(エドアルド・カムツリ)
発行年 2024
ページ数 95
出版社 Timeo (タイムオ)
ISBN 979-12-8122-732-3

お問い合わせ

Timeo (タイムオ)
担当 Victoria Peretitskaya
(ヴィクトリア・ペレティスカヤ)
E-mail bou_dicca@yahoo.com
URL <https://timeo.store/>

アイドル、インフルエンサー、セクシー女優 ——世界で消費される「女の子」を解放する 画期的なフェミニズム論



10

サッド・ガール ——理論としての「女の子」 サラ・マルズッコ

Sad Girl. La ragazza come teoria
Sara Marzullo

「私は悲しかった。蜜のようにねばねばしては、インセンスの香りのようにしみ込んでくる悲しみだった。そう表現するしかなかった」。20歳の頃、サラ・マルズッコは自分の憂鬱を上手く説明できないでいた。だから1年のあいだ、タトゥーを入れ、黒い服を着て、女性を書いた詩集だけを読み続けた。突然、若さゆえの混乱と戸惑いがひとつに固まってアイデンティティを獲得する。それがサッド・ガールだ。彼女は、夭折の詩人シルヴィア・プラスや『ヴァージン・スーサイズ』、『17歳のカルテ』といった映画を通して、自分がひとりきりではないこと、何よりも、悲しみを持った女性もまた、ありえない欲望の対象であることを理解した。

時を経て現在、サラ・マルズッコは、若い女性たちに向けられる文化的な強迫観念の裏に何が隠されているのかを自問する。ポップスター、「一人称の産業」、文化事業など、「女の子」を形作り、その行動と感情教育、性教育に影響を及ぼす原型（アーキタイプ）と典型（ステレオタイプ）を調査する。そうすることで、受け身の対象物という役割から女性を解放する理論を引き出すのだ。役割はすぐに認識できない場合もある。とりわけアートとセックスのように、資本主義と切り離せない公権力と非公式な権力が混ざり合う場においては、混乱した極限状態では、女性が悪用され、黙認される状況が生まれる。サラ・マルズッコの役割は、文学的、社会的、人間学的なマニフェストでもある。



作者略歴

サラ・マルズッコ Sara Marzullo

文化面を担当するジャーナリストであり、翻訳家。書評、都市論、ジェンダー論について記事を執筆する。『サッド・ガール』は彼女の初の単著。

作品情報

タイトル Sad Girl. La ragazza come teoria
(サッド・ガール ——理論としての「女の子」)
著者 Sara Marzullo (サラ・マルズッコ)
発行年 2023 / ページ数 176
出版社 66thand2nd
ISBN 978-88-3297-329-7

お問い合わせ

66thand2nd
所在地 Via Marcello Malpighi 12 A,
00161 Roma
Tel (+39) 06-4425-4467
E-mail rights@66thand2nd.com
URL https://66thand2nd.com/

森羅万象をあくまで「まとまり」として捉える、自然への斬新な視点



11

自然の意味 ——地球の7つの道 パオロ・ペーチェレ

Il senso della natura.
Sette sentieri per la Terra
Paolo Pecere

オランウータン、タコ、ジンベエザメの目をじっと見つめること。砂漠、森、山脈を理解するために歩き、人間の思想の伝統を横断すること。ニューヨークからガラパゴス諸島、アイスランドからボルネオ、ルワンダからチベットへと旅をしながら、私たちの家である地球、この管理すべき惑星に分け入ること。

この惑星の未来を描かなければならない。気候災害、種の絶滅、砂漠化、風景の消失といった現象を通じて、近年、私たち人間の文明が自然に与えた

破壊的な影響が明らかになった。にもかかわらず、この認識は私たちの生活様式や、災害を避けるための社会的解決策において、実際の変化を生み出していない。同時に、私たちは手つかずの自然に対する熱い想いと深い郷愁が広がっていくのを目の当たりにしている。それは、世界を震わせる耐え難い不協和音からの避難所としての自然への欲求だ。その感情はたしかに本物であり、否定するものではないが、地球を守るためにはまったく不十分である。

この矛盾した状況において、科学的

な真実だけでは私たちを動かすには足りない」と認識し、パオロ・ペーチェレの旅が始まる。都市を研究し、それら都市が環境から孤立しているように見える一方で、自然資源に依存している現実を探ること。山や海底に移動しながら、人間の意識の起源、宇宙秩序という概念、私たちとまったく異なるように感じられるもの——動植物や水、石、風景——との関係を探求すること。

では、今日における自然の真の意味とはいったい何か？ 私たちが再発見すべき、または新たに想像し直さなければならぬ感覚とは何か？ それは私たちとは異なる存在を愛すること

かもしれないし、沈黙し続けること、私たち自身の目ではなく、他者の目を通して世界を見ることであるかもしれない。あるいは、常に自分自身に固執し続けることをやめることかもしれない。

世界を癒す方法の発見や、生態学の新たな定義——かつて『すばらしい科学』と呼ばれていたものが、今や『悲しい科学』と化している——には、自然を感じる新たな方法を描く未来のビジョンと、私たちの生物学的記憶を呼び起こすことが必要である。それは、有機物と無機物を問わず、地球上に存在するすべてのものが解きほぐせない一体性を持つという感覚を私たちに目覚めさせるものだ。



作者略歴

パオロ・ペーチェレ Paolo Pecere

1975年、ローマ生まれ。哲学と文学を専門とし、ローマ第三大学で哲学史の准教授を務める。主な著作に、La filosofia della natura in Kant (カントにおける自然哲学, Edizioni di Pagina, 2009)、Dalla parte di Alice. La coscienza e l'immaginario (アリスの視点から——意識と幻想, Mimesis Edizioni, 2015) などがある。また、2作の小説、La vita lontana(遠い人生, LiberAria, 2018) と Risorgere (復活, Chiarelettere, 2019) を発表している。最新作はIl dio che danza. Viaggi, trance, trasformazioni (踊る神——旅、トランス、変容, Nottetempo, 2021)。

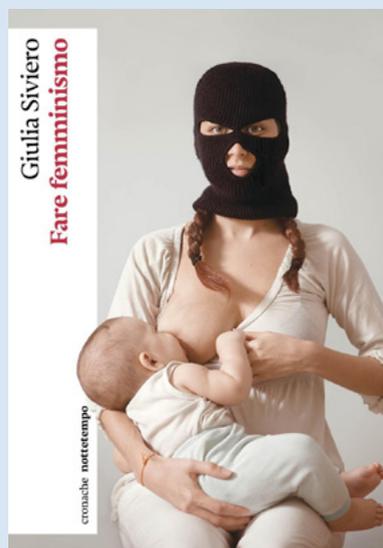
作品情報

タイトル Il senso della natura. Sette sentieri per la Terra (自然の意味——地球の7つの道)
著者 Paolo Pecere (パオロ・ペーチェレ)
発行年 2024 / ページ数 540
出版社 Sellerio (セッレリオー)
ISBN 978-88-3894-650-9

お問い合わせ

Sellerio Editore Srl (セッレリオー・エディトーレ)
所在地 Via Enzo ed Elvira Sellerio 50, 90141 Palermo
担当 Silvia Zamperini (シルヴィア・ザンペリーニ)
E-mail silvia.zamperini@sellerio.it
URL <https://www.sellerio.it/it/>

ジェンダーギャップ指数 ヨーロッパ最下位のイタリア発 フェミニズム本来の意味を問う革命の書



12

フェミニズムを 実践するということ ジュリア・シヴィエーロ

Fare femminismo
Giulia Siviero

フェミニズムの歴史において、実践が語られることはあまりなかった。けれど、婦人参政権が論じられた時代から今日にいたるまで、女性の政治参加は他のいかなる運動よりも際立っていた。それは、創造力をユニークかつ派手に使い、鋭い思想と言葉を結びつけてきたからだ。本書は理論も丁寧に組み込みつつ、さまざまな時代のエピソードで構成されている。いかにしてフェミニストたちが古い女性像を葬り去り、ブライダル・フェアにネズミを放ち、高価な芸術作品を破壊したか。いかにして公衆の面前で身体を露出し、法律について議論するために法廷を占拠し、沈黙や怒りや挑発を具体的なアクションに変え、拒否の表明やストライキやボイコットを生み出し、自分たちと世界を変えてきたか。著者の語る実践は、「想定外の方角へと舵を切り、差別化を図る。それが今もお続く私たちの挑戦なのだ」。フェミニズムが世俗的に成功し、政治運動が権利の要求だけに収まっていくなかで、本書は本来のフェミニズムの系譜を取り戻そうとしている。それがあればこそ、この社会で何かを望み、対抗の手立てを考え、連帯意識を感じ、既成概念を破壊することができる。そして、自由に行動できるのだ。



作者略歴

ジュリア・シヴィエーロ Giulia Siviero

ヴェローナ大学文学部哲学科を卒業。ジェンダーと女性の政治参加をテーマに、国内の複数の日刊紙で記事を執筆。

作品情報

タイトル Fare femminismo
(フェミニズムを実践するということ)
著者 Giulia Siviero
(ジュリア・シヴィエーロ)
発行年 2024
ページ数 192
出版社 nottetempo (ノッテテンポ)
ISBN 979-12-5480-104-8

お問い合わせ

nottetempo srl (ノッテテンポ)
所在地 Via Anfiteatro 9, 20121 Milano
担当 Beatrice Pozzi
(ベアトリーチェ・ポッツィ)
Tel (+39) 02-8051-693
E-mail beatrice.pozzi@edizioninottetempo.it
URL <https://www.edizioninottetempo.it/it/>

理系も文系も、歴史も未来も、 すべて串刺しにする画期的考察



13

緑の世界

——中生代からSFまでの森を生きる
ダニーロ・ザガリーア

Il groviglio verde. Abitare le foreste dal Mesozoico alla fantascienza
Danilo Zagaria

森は、地球の陸地のかなりの部分を覆い、木々の根や枝、葉、そして生き物が入り組んで絡み合う複雑な構造の一部を成している。それを描き出すために、生物学者であり啓蒙家でもあるダニーロ・ザガリーアは、森林科学、生態学、地質学の知見を基盤にしなが、文学、哲学、人類学、建築学、経済学といった分野にも鋭い視点で切りこみ、多面的な考察を展開している。

ザガリーアは、海岸沿いのマングローブ林からシベリアのタイガ、熱帯雨林の樹冠からヨーロッパ中央部の原生混交林に至るまでを巡り、地球の深奥から空飛び川、先史時代から未来にまで至る、複雑で多層的な世界を私たちの目の前に描き出していく。

こうした複雑に絡み合う緑の世界は、空間と時間を越えて物語を紡ぎ出し、人間と異なる種が共存する「多種共生」の物語を織り成していく。そして、それらの物語の糸は、別の手によって再び編み直され、予想もしえない驚くべきつながりを生み出していくのだ。



作者略歴

ダニーロ・ザガリーア Danilo Zagaria

生物学者、科学啓蒙家、編集者。さまざまな新聞や書籍において、科学や動物について執筆している。2020年に文芸・科学雑誌Axolotl (アホロートル, La Linea Laterale) を創刊。著書にIn alto mare. Paperelle, ecologia, Antropocene (大きな海で——アヒル、生態学、人新世, add editore, 2022)。

作品情報

タイトル Il groviglio verde. Abitare le foreste dal Mesozoico alla fantascienza (緑の世界——中生代からSFまでの森を生きる)
著者 Danilo Zagaria (ダニーロ・ザガリーア)
発行年 2024
ページ数 264
出版社 add editore (アッド・エディトール)
ISBN 978-88-6783-465-5

お問い合わせ

add editore Srl (アッド・エディトール)
所在地 Piazza Carlo Felice 85, 10123 Torino
担当 Anna Spadolini (アンナ・スパドリーニ)
Tel (+39) 011-5629-997
E-mail annaspadolini@gmail.com
URL <https://www.addeditore.it/>



プレスリーから
『ルックバック』まで
サブカルを横断する
センチメンタル・グラフィティ

ハートブレイク・ホテル

[作] ミコル・アリアンナ・ベルトラミーニ

[画] アニエーゼ・インノチェンテ

Heartbreak Hotel

Micol Arianna Beltrami, Agnese Innocente

14



人生最愛の人を失ったマヤ。憧れの男性にからかわれたマルティーノ。彼氏と親友に裏切られたフィオーナ。彼女に起こったことで自分を責めるフェーデ。それぞれ心に傷を負った4人は、ハートブレイク・ホテルの淡い温もりになぐさめられる。傷つき泣いてはいるものの、やがて涙を拭くときが来る。傷を癒し、力を合わせてもう一度世界と向き合うときが来るのだ。



作者略歴

ミコル・アリアンナ・ベルトラミーニ Micol Arianna Beltrami

101 cose da fare a Milano almeno una volta nella vita (人生に1度はミラノでしたい101のこと, Newton Compton, 2008) と La mia amica scavezzacollo (向こう見ずな女友達, Hacca, 2022) の著者。漫画の原作者として Last goodbye. Un tributo a Jeff Buckley (ラスト・グッドバイ ジェフ・バックリーへのトリビュート, Edizioni BD, 2019)、Murder Ballads (マmurダー・バラッズ, Mondadori Oscar Ink, 2021)、アニエーゼ・インノチェンテとの共作で Anna dai capelli verdi (緑毛のアン, Piemme, 2022) を発表。



アニエーゼ・インノチェンテ Agnese Innocente

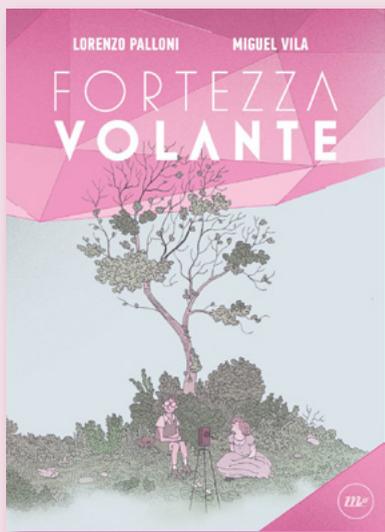
1994年生まれの脚本家、漫画家、ウェブ・イラストレーター。2019年にテキスト・イラストをともに担当したデビュー作 Il meraviglioso mago di Oz (オズの魔法使い, Il Castoro) を発表。ライマン・フランク・ボームによる児童文学の古典『オズの魔法使い』を漫画で再構築した作品となっている。他の代表作としてはセルジョ・ロッシと共作し、2021年にアンデルセン賞最優秀漫画部門を獲得した Girotondo (ジロトンド, Il Castoro, 2020)、ミコル・アリアンナ・ベルトラミーニがテキストを担当した Anna dai capelli verdi (緑毛のアン, Piemme, 2022)、Heartbreak Hotel (ハートブレイク・ホテル, Il Castoro, 2024) がある。

作品情報

タイトル Heartbreak Hotel
(ハートブレイク・ホテル)
著者 Micol Arianna Beltrami, Agnese Innocente
(作ミコル・アリアンナ・ベルトラミーニ、画アニエーゼ・インノチェンテ)
発行年 2024
ページ数 240
出版社 Il Castoro (イル・カストロ)
ISBN 979-12-5533-133-9

お問い合わせ

Editrice Il Castoro
(エディトリーチェ・イル・カストロ)
所在地 Viale Andrea Doria 7, 20124 Milano
担当 Andreina Speciale
(アンドレイーナ・スペチャーレ)
Tel (+39) 02-2951-3529
E-mail speciale@editriceilcastoro.it
URL https://editriceilcastoro.it/



歴史にSFを溶け込ませた、 UFOをめぐるワンダー

空飛ぶ城塞

[作] ロレンツォ・パッローニ

[画] ミゲル・ヴィーラ

Fortezza Volante
Lorenzo Palloni, Miguel Vila

15

2000年代前半、イタリアの民間だが国立を名乗るUFO研究所は、1933年にミラノ近郊で起こった空飛ぶ円盤の爆発に関する複数の記録文書を公表した。その墜落現場は、「ガビネット特別研究チーム33」というベニート・ムッソリーニ直轄の組織が入念に調査することになったというのである。ローズウェル事件に何年か先行し、UFO研究の歴史を書き換えるようなこの奇妙な出来事が、本作『空飛ぶ城塞』のインスピレーションの源泉だ。

このディストピア的なグラフィック・ノベルでは、歴史小説の中にSFの要素が溶け込んでいる。戦争で世界



中が消耗していく中、連合国もファシストも、パルチザンもイタリア政府も、数年前にミラノ周辺の田舎町ヴェルジャータに落下した謎の飛行物体にまつわるあれこれに重大な関心を注いでいたというのだ。異星人のテクノロジーの秘密をめぐる大胆不敵な競争の中で登場人物の人生が交錯し、今日の我々が知る歴史のめぐり合わせが書き換えられていく。



作者略歴

ロレンツォ・パッローニ Lorenzo Palloni

1987年、アレッツォ生まれ。著書にMooned (夢見がち, Shockdom, 2012)、Scary Allan Crow (おっかないアラン・クロウ, Inkiostro, 2017)、Falene (蛾, raccolta, 2018) といったグラフィック・ノベルがあり、Un lungo cammino (長い歩み, Shockdom, 2016) ではイラストを手がけている。フランスのマーケットではl'île (島, Éditions Sarbacane, 2016)、La Louve (狼, Éditions Sarbacane, 2017)、そしてアンドレア・セッティモとの共作でThe Corner (ザ・コーナー, Rizzoli Lizard, 2016) といった作品を出版していて、イタリアの著名漫画家の名を冠したボスカラート賞では国内最優秀脚本賞を受賞している。



ミゲル・ヴィーラ Miguel Vila

1993年、パドヴァ生まれ。著書に、ボスカラート賞とイタリア最高峰の漫画賞グラン・グイニージ賞を獲得したPadovaland (パドヴァランド, Canicola, 2020) や、コミコン2021で最優秀漫画賞を受けたFiordilatte (フィオルディラッテ, Canicola, 2021) がある。

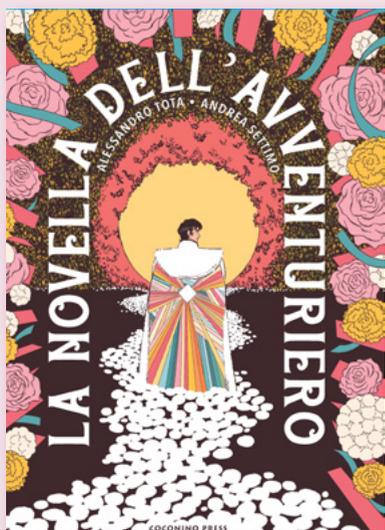
作品情報

タイトル Fortezza Volante (空飛ぶ城塞)
著者 Lorenzo Palloni, Miguel Vila
(作ロレンツォ・パッローニ、画ミゲル・ヴィーラ)
発行年 2023 / ページ数 200
出版社 Minimum Fax (ミニマム・ファックス)
ISBN 978-88-3389-465-2

お問い合わせ

Minimum fax Srl (ミニマム・ファックス)
所在地 Via Giuseppe Pisanelli 2, 00196 Roma
担当 Tiziana Bello (ティツィアーナ・ベッロ)
E-mail tiziana@minimumfax.com
URL <https://www.minimumfax.com/>





キューブリックの世界観を持った
めークな空想科学小説
舞台はルネサンス時代の
イタリア!?

冒険家小説

[作] アレッサンドロ・トータ

[画] アンドレア・セッティモ

La novella dell'avventuriero
Alessandro Tota, Andrea Settimo

16

果たして我々は自らの人生の創造主なのか。それとも基本ルールもわかっていないゲームの駒にすぎないのか。『冒険家小説』は、そんな疑問を投げかけるグラフィック・ノベルだ。タイトルは、オーストリアの作家アルトゥール・シュニッツラーの未完の小説から。舞台は1520年、ルネサンス時代のイタリア。自分が死ぬ日を知った主人公のアンセルモは、その運命を回避すべくあの手この手をつくす。だが、どれだけあがいても、彼は死に近づくばかりだった……。



スタンリー・キューブリックの遺作『アイズ・ワイド・シャット』の原作として知られるシュニッツラーの『夢小説』と同じく、最初はリアリスティックな歴史小説のテイストだが、徐々に現実が破綻し、空想と混ざり合い、最後には哲学的な思索へと発展していく。



作者略歴

アレッサンドロ・トータ Alessandro Tota



世界で最も成功したイタリア人漫画家の一人。特にフランスでは全作品が出版されており、現地で講師として後進の育成にも努めている。イタリアではCoconino Pressから2010年にYeti(イエティ)、2011年にFratelli(兄弟)、2015年にIl ladro di libri(本泥棒)、2016年にCharles(チャールズ)を刊行。Fandango Libriから2012年にカテリーナ・サンソーネとの共作でPalacinche(パラチンケ)、Oblomovから2018年にEstate(夏)、Canicolaから2022年にCaterina e i capellosi(カテリーナと髪の毛団)をそれぞれ刊行している。

アンドレア・セッティモ Andrea Settimo



1990年、パドヴァ生まれ。現在はボローニャ在住。2010年に国内外の新人漫画家の作品を出版するインディペンデント・レーベルDelebileを仲間たちと創設。ロレンツォ・パッローニがテキストを手掛けたノワール・コミックThe Corner(コーナー)のイラストを担当。同作品は2014年にフランスでSarbacaneから、2016年にイタリアでRizzoliから出版されている。

作品情報

タイトル La novella dell'avventuriero
(冒険家小説)
著者 Alessandro Tota, Andrea Settimo
(作 アレッサンドロ・トータ、画 アンドレア・セッティモ)
発行年 2024 / ページ数 192
出版社 Coconino Press(ココニノ・プレス)
ISBN 978-88-7618-713-1

お問い合わせ

Am-book Inc. (AMブック)
所在地 49 Elizabeth Street, 4th Floor, 10013 New York
担当 Alessandra Sternfeld, Alice Amico
(アレクサンドラ・ステンフェルド、アリーチェ・アミーコ)
E-mail alessandra@am-book.com
alice@am-book.com
URL <https://www.am-book.com/>

イタリア文化会館-大阪について

世界に約80あるイタリア文化会館のひとつである「イタリア文化会館-大阪」は、西日本におけるイタリア文化の普及と日伊友好・交流の促進を主な目的とした、イタリア外務・国際協力省の海外出先機関です。語学講座をはじめ、イタリア人アーティストを招聘しての演奏会や展覧会、映画上映会・演劇公演など、さまざまな文化催事を開催しています。

また、館内には約4,600点の図書および約600点の映像・音声資料を所蔵し、語学講座の受講生だけでなく、一般の方にも資料の貸出を行っています。

〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18
中之島フェスティバルタワー17階
Tel 06-6229-0066 (代表)
E-mail iicosaka@esteri.it (代表)



イタリア文化会館-東京

東日本で活動する「イタリア文化会館-東京」は、皇居近くの閑静なエリアに位置しています。赤い外観が印象的な建物は、イタリアの建築家ガエ・アウレンティの設計によるものです。

施設内には、総座席数372のホールやエキシビジョン・ホール、語学文化コースの教室、そして約1万8千冊を所蔵する図書室が備えられており、イタリア文化に関連する多彩な催しが行われています。

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30
Tel 03-3264-6011 (代表)
E-mail iitokyo@esteri.it (代表)

Book Prideについて

イタリアの独立系出版社のブックフェア「Book Pride」は、中小規模の出版社に新たな認知の機会と空間を提供することを目的とし、年に2回、ミラノ(3月)とジェノヴァ(10月)で開催されています。インディーズの良質な出版社と新人作家を繋ぎ、著名な文化人と独立系出版業界の対話の場を設ける「実験の場」となることを狙いとしています。

2025年からは、イタリア最大のブックフェアである「トリノ国際ブックフェア」のプロジェクトの一部となっています。

Book Pride 2025開催日程

ジェノヴァ会場

会期 2025年10月3日～5日
会場 Palazzo Ducale
(ドゥカーレ宮殿)

ミラノ会場

会期 2025年3月21日～23日
会場 Superstudio Maxi
(スーパースタジオ・マキシ)



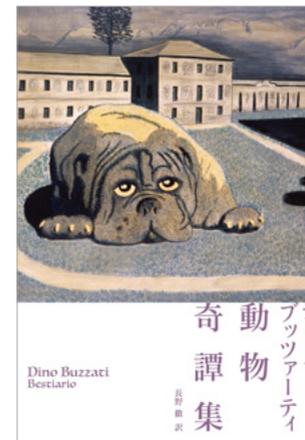
須賀敦子翻訳賞／イタリア文化会館-東京

1988年に創設、2007年に中断された「ピーコ・デッラ・ミランドラ賞」の後継として2014年に新設され、イタリア語の著作の優れた日本語への翻訳を評価、広く紹介することを目的とし、隔年で開催しています。

● 第5回授賞作品(2023年)



『フォンタマラ』
イニャツィオ・シローネ 著
斎藤ゆかり 訳 光文社 2021年



『動物奇譚集』
ディーノ・ブツァーティ 著
長野徹 訳 東宣出版 2022年

選考委員会：シルヴィオ・ヴィータ、岡田温司、柴田元幸、白崎容子、関口英子、野谷文昭、和田忠彦(委員長)(敬称略)

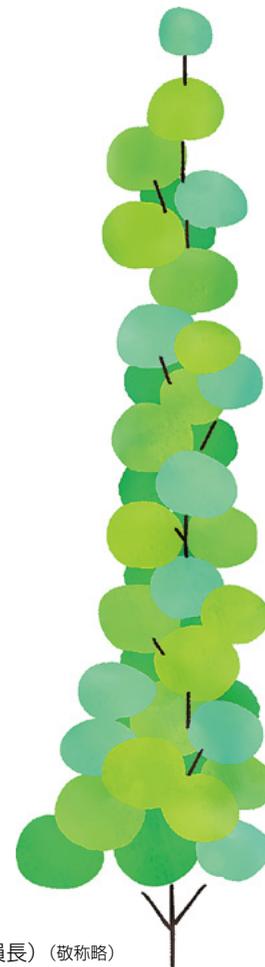
● 第6回授賞作品(2025年)

2025年9月下旬発表、10月下旬授賞式(予定)

選考委員会：岡田温司、柴田元幸、関口英子、野谷文昭、和田忠彦(委員長)(敬称略)



歴代授賞作品は右記QRコード(イタリア文化会館-東京HP)よりご覧いただけます。



イタリア外務・国際協力省による

翻訳出版・映像／吹替え／字幕翻訳制作への助成金制度

イタリア外務・国際協力省では、イタリア語・イタリア文化を海外に発信し、普及させることを目的とし、翻訳出版（電子書籍を含む）・映像／吹替／字幕翻訳制作に対する助成金を交付しています。

● 2024年に助成金交付対象となった13作品



『ぼくがエイリアン
だったころ』
トンマーゾ・ピンチョ 著
二宮大輔 訳
ことばのたび社 2024年



『わたしの人生』
ダーチャ・マライーニ 著
望月紀子 訳
新潮社 2024年



『ハトのしあわせうり』
ダヴィデ・カリ 文
マルコ・ソマ 絵
山下愛純 訳
アチエロ 2024年



『ヴィアッジョ・イタリア』
ダニーロ・ラゴーナ
ルカ・パイアルディ 共著
荒木美弥子 訳
サウザンブックス 2025年

『とんでごらん!』ダヴィデ・カリ 文、アダルジーザ・マセッラ 絵、橋本あゆみ 訳、アチエロ
『太陽の下、なにものも古びず』ルイジ・ギッリ 著、萱野有美 訳、みすず書房
『異邦人』クラウドディア・ドゥラスタンティ 著、栗原俊秀 訳、白水社
『Trieste. An identity of border city』クラウドディオ・マグリス 著、津田雅之 訳、幻戯書房
『日本ノート』イゴルト 作、栗原俊秀、ディエゴ・マルティーナ 共訳、光文社
『デュポン書店の奇妙な事件』ファブリツィオ・アルティエーリ 著、吉富文 訳、影書房
『クレムスの曲がりくねる時間』クラウドディオ・マグリス 著、二宮大輔 訳、共和国
『(仮) ぼくにかえる』ルカ・トルトリエーニ 文、マルコ・ソマ 絵、清水玲奈 訳、アチエロ
『(仮) ぬまはよんでいる』ダヴィデ・カリ 文、マルコ・ソマ 絵、山下愛純 訳、アチエロ

お問い合わせ

イタリア文化会館・大阪
担当エリア 愛知県以西の西日本に所在する申請者
Tel 06-6229-0066
E-mail iicosaka@esteri.it

イタリア文化会館・東京
担当エリア 静岡県以東の東日本に所在する申請者
Tel 03-3264-6011 (内線23)
E-mail biblioteca.iictokyo@esteri.it



イタリア現代文学案内2025

La letteratura italiana di oggi

2025年5月発行

発行 イタリア文化会館・大阪
〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18
中之島フェスティバルタワー17階
Tel 06-6229-0066 (代表)
E-mail iicosaka@esteri.it (代表)

企画 アンドレア・ラオス

監修 中岸梨絵

翻訳 京都ドーナツクラブ
イタリア文化会館・大阪

デザイン 有園菜希子

協カ イタリア文化会館・東京
Book Pride
プロジェクトマネージャー
フランチェスコ・モルガンド
キュレーター
ラウラ・ペッツィーノ マルコ・アメリーギ

Book Prideはトリノ国際ブックフェアのプロジェクトです

©イタリア文化会館・大阪
©Associazione Book Pride

イタリア文化会館 - 大阪
Istituto Italiano di Cultura di Osaka



FIERA NAZIONALE DELL'EDITORIA INDIPENDENTE
**BOOK
PRIDE**



**SALONE
INTERNAZIONALE
DEL LIBRO TORINO**

ISTITUTO
italiano
DI CULTURA